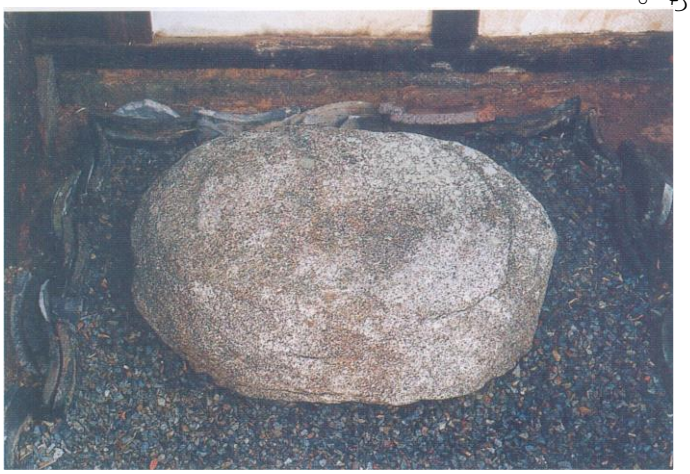
●シリーズ●わが町の文化財＜113＞

世羅町重要文化財　**康徳寺廃寺礎石**

昭和63年2月9日指定

寺町字箕口には、広島県史跡の康徳寺古墳があります。この古墳の東側一帯に蓮華文軒丸瓦などの古瓦が出土、法起寺式伽藍配置をもった康徳寺廃寺が存在することが、平成3年度～平成6年度にわたり広島大学文学部考古学研究室・広島県教育委員会文化課の指導の下、世羅町教育委員会が実施した発掘調査により明らかになりました。また、円形造り出しのある礎石が6基発見されており、白鳳時代のものと推定されています。礎石の寸法はおおよそ60㎝×60㎝×25㎝位のもので、の材質は花崗岩製です。

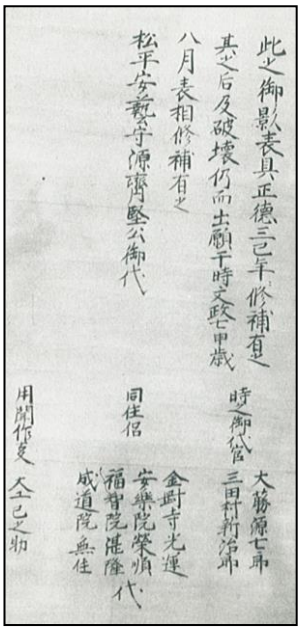
廃寺は備後の北部と南部を結ぶ交通の要衝に建立され、白鳳時代末期から奈良時代にかけて存続したものと考えられます。平安時代末期の大田庄立券（立券荘号）のはるか以前から世羅の地は開発されており、この礎石は当地における石造文化財の創始を物語るものです。



●シリーズ●わが町の文化財＜114＞

世羅町重要文化財　**絹本著色四社明神像**（けんぽんちゃくしょくししゃみょうじんぞう）

昭和59年5月15日指定

今高野山の鎮守社である高野明神・丹生明神の神像で、高野・丹生（に）の神を上段に併置し、その下にそれぞれ子の神像を描いています。寸法は、縦72㎝、横36.8㎝で南北朝時代の優品です。表具裏墨書から、本画像は正徳3年（一七一三）及び文政7年（一八二四）に修補されたことが分かっています。また、裏書には、時の代官・住侶などの名が記されています。

軸の上部裏には、「備後国今高野山龍華密寺御影堂什物」の墨書があります。